

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第24週 (6/14-6/20) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		24週	23週	22週	21週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	17	17	17
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	27	27	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	6/14-6/20	6/7-6/13	5/31-6/6	5/24-5/30	6/7-6/13
			24週	23週	22週	21週	23週
小児科	RSウイルス感染症	◎	40 2.35	15 0.88	12 0.71	17 1.00	80 0.62
	咽頭結膜熱		3 0.18	4 0.24	1 0.06	2 0.12	21 0.16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		8 0.47	6 0.35	3 0.18	4 0.24	65 0.50
	感染性胃腸炎	○	54 3.18	41 2.41	39 2.29	51 3.00	286 2.20
	水痘		0 0.00	1 0.06	1 0.06	3 0.18	24 0.18
	手足口病		1 0.06	3 0.18	0 0.00	1 0.06	10 0.08
	伝染性紅斑		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	突発性発しん		8 0.47	12 0.71	11 0.65	16 0.94	59 0.45
	ヘルパンギーナ		0 0.00	2 0.12	0 0.00	1 0.06	8 0.06
	流行性耳下腺炎		2 0.12	0 0.00	2 0.12	0 0.00	9 0.07
	インフル		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	0 0.00	1 0.20	1 0.20	7 0.21
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(114件)

※新型コロナウイルス感染症109件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出等	結核	女性	90歳代	病原体の分離・同定
結核	女性	30歳代	病原体等の検出	E型肝炎	男性	70歳代	血清IgA抗体の検出
結核	女性	70歳代	胸水ADA値の上昇	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等

・第24週は、結核4件(67)、E型肝炎1件(2)、新型コロナウイルス感染症109件(4857)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第24週のコメント

＜RSウイルス感染症＞ 前週のおよそ3倍に急増した。過去10年で2017年第35週に次ぐ多さ。区別の発生状況は、美浜区(6.25)で最多で1歳及び2歳で最も多かった。その他、稲毛区(2.0)及び緑区(2.25)で発生報告があった。

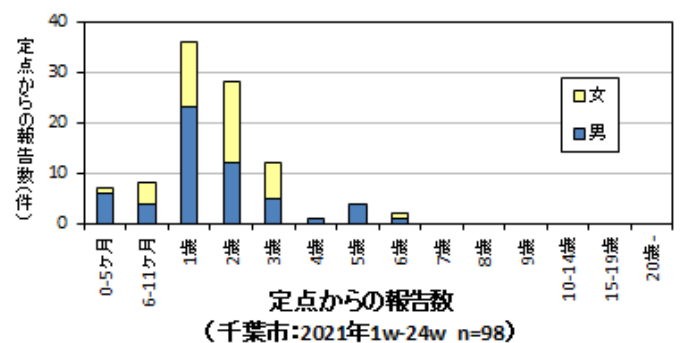
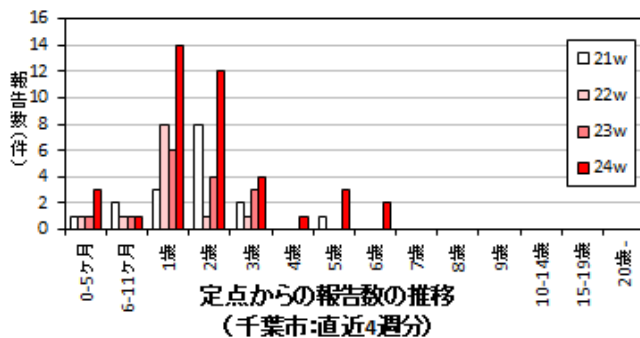
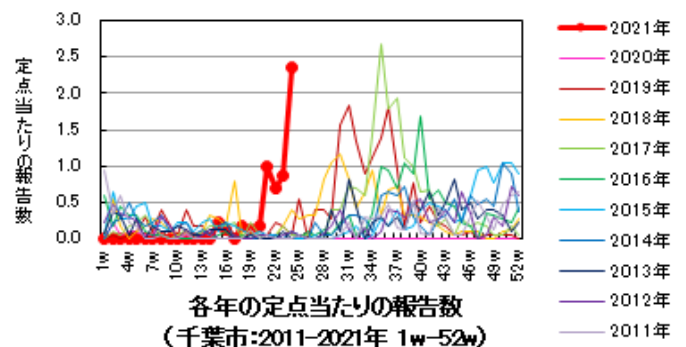
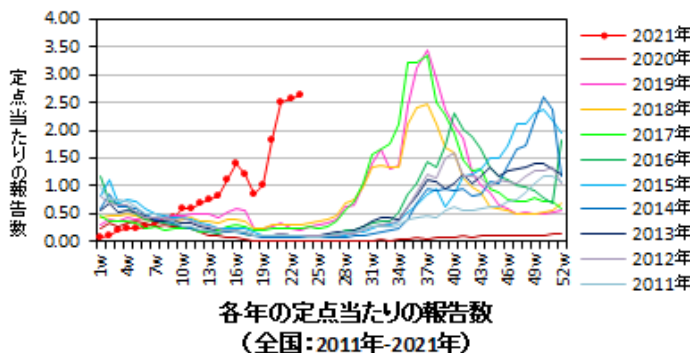
＜感染性胃腸炎＞ 前週より増加し、2021年で最多となった。区別の発生状況は、緑区(6.5)で最多で、1歳で最も多く発生報告があった。

■ トピック ■

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第23週時点は、前週から更に増加し2.62となり、依然として過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では北陸地方及び東海から近畿地方での発生報告が多く、福井県、山口県、富山県の順で多く報告されています。関東地方は比較的少なく、千葉県は0.78で全国レベルと比べると少なくなっていますが、流行が九州地方から次第に北上しているため今後の動向には注意が必要です。

千葉市の第24週は、前週のおよそ3倍に急増し2.35となり、過去10年で2017年第35週(2.67)に次いで多くなりました。区別の発生状況は美浜区(6.25)で最多で、1歳及び2歳で最も多く発生報告がありました。RSウイルス感染症は主に1歳以下の乳幼児に多いことに対して、美浜区では1歳から6歳で発生報告がありました。2021年第1週から第24週までの累積報告数は98件で、男性57.1%(56件)、女性42.9%(42件)で、年齢階級別では1歳(36.7%:36件)、2歳(28.6%:28件)、3歳(12.2%:12件)の順に多くなっています。



RSウイルス感染症は、RSウイルス(respiratory syncytial virus)の感染による呼吸器の感染症です。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、乳期、特に乳児期早期(生後数週間～数カ月間)にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。そのため、特に乳児期早期のお子さんがある場合には、感染を避けるための注意が必要です。

感染経路は飛沫感染と接触感染です。発症の中心は0歳児と1歳児です。一方、再感染以降は感冒様又は気管支炎症状のみである場合が多いことから、咳等の呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り接触を避けることが重要で、飛沫感染対策としてマスクを着用して接することが大切です。接触感染対策としては、子どもが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗いか又はアルコール製剤による手指衛生の励行を行います。